

文学部カリキュラムポリシー＜2026年度以降入学者＞

	大学共通	文学部 英語英米文学科	文学部 日本文学科	文学部 国際文化学科	文学部 現代社会学科
CP	成蹊大学は、「学位授与の方針」を踏まえ、次のような方針で教育課程を編成・実施します。				
CP1	(CP1) (各学科、各専攻の)専門分野を系統的・体系的に学修できるように、各科目を適切に配置する。	(CP1) 英語英米文学科の専門分野を系統的・体系的に学修できるように、各科目を適切に配置する。 (CP1-1) 専門の講義科目を系統・体系的に学修できるように「言語と社会」、「文化と歴史」、「芸術と思想」の三つの科目群(フォーカス)に分けて配置する。 (CP1-2) 本学科の専門知識のみならず、広い教養と汎用性を身につけた、高い能力を持つ中学校・高校の英語の教員を養成する教職課程を設ける。	(CP1) 日本文学科の専門分野を系統的・体系的に学修できるように、各科目を適切に配置する。 (CP1-1) 本学科専門科目の中に、カリキュラムの基盤となる「基幹科目」群を設ける。「基幹科目」群のなかに、日本語・日本文学に関する広く深い知識を学修するための科目群として「基礎科目」、「日本語史・日本文学史科目」、「日本語学科目」、「日本文学科目」を、また段階的な演習により高度な卒業論文の完成を目指す科目群として「ゼミ科目」を置き、日本語・日本文学の系統的・体系的な学修を行う。さらに、日本の社会・文化・歴史を理解し、自らの専門的な学びの相対化をはかる「展開科目」群と、身につけた知見を生かして主体的に学び、社会で役立つ力を養う「実践科目」群を配置し、自らの学びに対する俯瞰力と実践力を涵養する。 (CP1-2) 本学科の専門知識のみならず、広い教養と汎用性を身につけた、高い能力を持つ中学校・高校の国語の教員を養成する教職課程を設ける。	(CP1) 国際文化学科の専門分野を系統的・体系的に学修できるように、各科目を適切に配置する。 (CP1-1) 歴史・文化研究、文化人類学、国際関係研究に関する選択必修科目を構成し、初級から上級まで体系的に学修できるように配置する。 (CP1-2) 本学科の専門知識のみならず、広い教養と汎用性を身につけた、高い能力を持つ中学校の社会あるいは高校の地理歴史・公民の教員を養成する教職課程を設ける。	(CP1) 現代社会学科の専門分野を系統的・体系的に学修できるように、各科目を適切に配置する。 (CP1-1) 社会学及びメディア研究のそれぞれに関して、基礎科目群と発展科目群を設けることで、体系的に学修できるように配置する。 (CP1-2) 本学科の専門知識のみならず、広い教養と汎用性を身につけた、高い能力を持つ中学校の社会あるいは高校の地理歴史・公民の教員を養成する教職課程を設ける。
CP2	(CP2) 広い教養と汎用性の高い技能を修得するための科目群「成蹊教養カリキュラム」を設ける。	(CP2) 広い教養と汎用性の高い技能を修得するための科目群「成蹊教養カリキュラム」を設ける。 (CP2-1) 「成蹊教養カリキュラム」に加えて、高度な英語の運用能力を養う「英語必修科目」を設ける。	(CP2) 広い教養と汎用性の高い技能を修得するための科目群「成蹊教養カリキュラム」を設ける。 (CP2-1) 「成蹊教養カリキュラム」に加えて、本学科専門科目の中に、日本の社会・文化・歴史を理解して自らの学びを相対化する「展開科目」群や、身につけた知見を生かして主体的に学び、社会に役立つ力を養う「実践科目」群を設ける。	(CP2) 広い教養と汎用性の高い技能を修得するための科目群「成蹊教養カリキュラム」を設ける。 (CP2-1) 「成蹊教養カリキュラム」に加え、世界を大きな時空的広がりの中でとらえ、多角的に分析するための科目群「広域科目」を設ける。	(CP2) 広い教養と汎用性の高い技能を修得するための科目群「成蹊教養カリキュラム」を設ける。 (CP2-1) 「成蹊教養カリキュラム」に加え、社会学・メディア研究の専門科目群、なかでも、街に出ること「社会実践」から学べるよう「実践科目」群を設ける。
CP3	(CP3) 視野を広げ、多面的な思考を促進するとともに、異分野の学生との交流、多様な人々との協働を図るために、学部学科の枠を超えて幅広く学ぶことのできる仕組みを設ける。	(CP3) 視野を広げ、多面的な思考を促進するとともに、異分野の学生との交流、多様な人々との協働を図るために、学部学科の枠を超えて幅広く学ぶことのできる仕組みを設ける。	(CP3) 視野を広げ、多面的な思考を促進するとともに、異分野の学生との交流、多様な人々との協働を図るために、学部学科の枠を超えて幅広く学ぶことのできる仕組みを設ける。	(CP3) 視野を広げ、多面的な思考を促進するとともに、異分野の学生との交流、多様な人々との協働を図るために、学部学科の枠を超えて幅広く学ぶことのできる仕組みを設ける。	(CP3) 視野を広げ、多面的な思考を促進するとともに、異分野の学生との交流、多様な人々との協働を図るために、学部学科の枠を超えて幅広く学ぶことのできる仕組みを設ける。
		(CP3-1) 自由設計科目を最大30単位設定し、関心に応じて学部内コース(芸術文化行政コース、日本語教員養成コース)のほか、全学共通として設置する副専攻・GSP・SEP、他学科・他学部・他大学の科目の履修ができるようにする。	(CP3-1) 自由設計科目を最大30単位設定し、関心に応じて学部内コース(芸術文化行政コース、日本語教員養成コース)のほか、全学共通として設置する副専攻・GSP・SEP、他学科・他学部・他大学の科目の履修ができるようにする。	(CP3-1) 自由設計科目を最大30単位設定し、関心に応じて学部内コース(芸術文化行政コース、日本語教員養成コース)のほか、全学共通として設置する副専攻・GSP・SEP、他学科・他学部・他大学の科目の履修ができるようにする。	(CP3-1) 自由設計科目を最大26単位設定し、関心に応じて学部内コース(芸術文化行政コース、日本語教員養成コース)のほか、全学共通として設置する副専攻・GSP・SEP、他学科・他学部・他大学の科目の履修ができるようにする。
CP4	(CP4) 思考力、表現力、課題解決力を集中的に錬成するために、(各学科の教育課程の適切な年次に)少人数の演習科目を置き、さらに卒業論文(またはこれに代わるもの)の作成を必修とする。 (CP4-1) 1年次から4年次まで少人数による必修の演習科目を配置する。特に1年次から2年次にかけては、専門分野を英語で学ぶ演習科目を設ける。 (CP4-2) 「卒業論文」を4年間の学修の集大成と位置づけ、3・4年次の演習等で集中的に指導する。また、その形式及び内容は学科において厳正に審査する。 (CP4-3) 各学年の演習科目において、口頭及び文章での表現力、プレゼンテーション力を向上させる。	(CP4) 思考力、表現力、課題解決力を集中的に錬成するために、英語英米文学科の教育課程の全学年に少人数の演習科目を置き、さらに卒業論文の作成を必修とする。 (CP4-1) 1年次から4年次まで少人数による必修の演習科目を配置する。特に1年次は、古典文学、近現代文学、日本語学という基本3分野の演習科目をすべて必修とする。 (CP4-2) 「卒業論文」を4年間の学修の集大成と位置づけ、3・4年次の演習等で集中的に指導する。また、その形式及び内容は学科において厳正に審査する。 (CP4-3) 各学年の演習科目において、口頭及び文章での表現力、プレゼンテーション力を向上させる。	(CP4) 思考力、表現力、課題解決力を集中的に錬成するために、日本文学科の教育課程の全学年に少人数の演習科目を置き、さらに卒業論文の作成を必修とする。 (CP4-1) 1年次から4年次まで少人数による必修の演習科目を配置する。特に2年次は、古典文学、近現代文学、日本語学という基本3分野の演習科目をすべて必修とする。 (CP4-2) 「卒業論文」を4年間の学修の集大成と位置づけ、3・4年次の演習等で集中的に指導する。また、その形式及び内容は学科において厳正に審査する。 (CP4-3) 各学年の演習科目において、口頭及び文章での表現力、プレゼンテーション力を向上させる。	(CP4) 思考力、表現力、課題解決力を集中的に錬成するために、国際文化学科の教育課程の全学年に少人数の演習科目を置き、さらに卒業論文の作成を必修とする。 (CP4-1) 1年次から4年次まで少人数による必修の演習科目を配置する。特に2年次には、専門分野を英語で学ぶ基礎力をつけるための演習科目を設ける。 (CP4-2) 「卒業論文」を4年間の学修の集大成と位置づけ、3・4年次の演習等で集中的に指導する。また、その形式及び内容は学科において厳正に審査する。 (CP4-3) 各学年の演習科目において、口頭及び文章での表現力、プレゼンテーション力を向上させる。	(CP4) 思考力・表現力・課題解決力を集中的に錬成するために、現代社会学科の教育課程の全学年に少人数の演習科目を置き、さらに卒業論文の作成を必修とする。 (CP4-1) 1年次から4年次まで少人数による必修の演習科目を配置する。4年間を通じて、「問題発見力」「リサーチ力」「社会実践」「アカデミックスキル」を修得する。 (CP4-2) 「卒業論文」を4年間の学修の集大成と位置づけ、3・4年次の演習等で集中的に指導する。また、その形式及び内容は学科において厳正に審査する。 (CP4-3) 各学年の演習科目において、口頭及び文章での表現力・プレゼンテーション力を向上させる。
CP5	(CP5) 自発性、積極性の達成のため、留学等の単位認定の仕組み、及び上級者向けの選抜型の科目を設ける。	(CP5) 自発性、積極性の達成のため、留学等の単位認定の仕組み、及び上級者向けの選抜型の科目を設ける。 (CP5-1) 高い英語力を備え国際的な活動に関心のある学生のために「成蹊 Global Study Program」を設ける。 (CP5-2) 各学年の演習科目において、博覧(日本文学研究奨励賞)への応募を促す。	(CP5) 自発性、積極性の達成のため、留学等の単位認定の仕組み、及び上級者向けの選抜型の科目を設ける。 (CP5-1) 「実践科目」群のなかに、「ワークショップ科目」群と「プロジェクト科目」群を設け、学生が主体的に学ぶ力や、自らの知見を実社会に活かす力を涵養する。 (CP5-2) 各学年の演習科目において、博覧(日本文学研究奨励賞)への応募を促す。	(CP5) 自発性、積極性の達成のため、留学等の単位認定の仕組み、及び上級者向けの選抜型の科目を設ける。 (CP5-1) 高い英語力を備え国際的な活動に関心のある学生のために「成蹊 Global Study Program」を設ける。	(CP5) 自発性、積極性の達成のため、留学等の単位認定の仕組み、及び上級者向けの選抜型の科目を設ける。